

「仕事ができる社員、できない社員」という本からです
「始動」するのが早い人 「仕事がかどる環境」は自分でつくる

仕事ができる社員を目指すのであれば、人間として生きるリズムそのものを、「早寝早起き」に変えてください。これは無条件にやるべきことです。「早起きは三文の得」という諺がありますが、それ以上のものがあります。頭の回転がよくなり、仕事が効率的にこなせるのです。このことは間違いありません。私の長年の体験からも断言できます。一日を早く始動し、朝の時間を活用して仕事をするのが有能なビジネスマンです。朝こそ勝負の時だと無条件に頭にたたき込んでほしいと思います。

私は、1986 年に香港での勤めを終えて日本に戻り、トリンプ・インターナショナル・ジャパンに転属してから 10 年間、毎朝 7 時半に出社しました。あまり大きな声ではいえませんが、日本に戻ってきた当時の私は、朝の 7 時半から夜 7 時半まで 12 時間労働を毎日続けていました。なぜならば、会社が崖っぷちだったからです。私が転属してきた 86 年は最低の売り上げを記録しました。しかし、翌年から毎年 10 パーセントを超えて売り上げが伸び始めました。

なぜ、売り上げが伸び始めたのか。理由は簡単です。やるべきことをやっただけです。それまでは単純にやるべきことがなされていなかったのです。「これをやらなければ」という意見があがっても、結局は不可能とあきらめてしまって、実際には誰も何もしません。そのくせ社員は、あれがいけない、これがいけないとか、給料が安いなどと不満をいっていたのです。それらの問題が一つひとつ克服されていくと、会社は自然と軌道に乗り始めました。そのうち、「ノー残業デー」が世間で流行り始めたので、それを真似てトリンプでもまずは金曜日に導入してみたのです。その結果うまくいき、金曜日ができるならば、と水曜日にも導入し、さらに週 2 日できるなら週 5 日でもできるだろう、ということで、最終的には「残業ゼロ」とすることができました。また社員には仕事を自宅に持って帰らせませんでした。「家で仕事をするような社員は早く会社を辞めなさい。効率的に仕事ができている証拠だからだ。それが本人のためでも、会社のためでもある」と常々社員にいつて聞かせたものです。もっとも、会社のトップともなれば、そうはいきません。会社は基本的にトップが働かなければ動かないのです。そうすることがトップの仕事の仕方なのです。

仕事が多くてとても時間内に終わりそうにもないからといって残業するのは、仕事ができない人です。まだ誰も来ていないオフィスで早朝から仕事をして、残業せずに定時で帰る—これがベストな仕事の仕方です。早朝の仕事がかどる理由は次の三つが挙げられます。

・早朝の集中力(頭の回転) ・静かな環境 ・始業時間までに終わらせる、という締め切り効果。

朝早くから仕事を始めると、頭の回転がいい状態で、雑音にわずらわされず集中できるうえ、始業時間というデッドラインを自然に意識しながら仕事ができるのです。「仕事がかどる条件」が整った環境をつくり、そこに自分の身を置くことができる人は、仕事ができる人です。頭を使って仕事ができるビジネスマンです。

また、仕事を前倒してこなしていくと、時間に余裕ができます。スタートダッシュが早いので、余裕を持って仕事を片づけていくことができます。仕事を徹底して片づける態勢が取れるのです。いい仕事をするために、結果を出すために「仕事がかどる環境を自分で作り出す方法」知っておくことは、仕事ができる社員になるために必要なことなのです。

早朝の仕事がかどる理由は三つが挙げられるのは何だと言っていますか？

() ()

()